

令和4年度第2回富山県公立大学法人評価委員会 議事録（概略版）

- 1 日時 令和4年8月3日（水） 13:30～14:10
- 2 場所 富山県立大学射水キャンパス中央棟 9階特別会議室
- 3 出席委員
 - ・金森 俊幸 [(一社)富山県機電工業会会長・田中精密工業(株)相談役]
 - ・林 幸秀 [(公財)ライフサイエンス振興財団理事長] ※委員長
 - ・福田 敏男 [名城大学大学院理工学研究科教授、名古屋大学名誉教授]
 - ・藤重 佳代子 [(株)マーフィーシステムズ代表取締役社長]
 - ・堀 仁志 [堀税理士法人代表社員・公認会計士]
- 4 会議の概要
 - ・司会が開会を宣し、県経営管理部長より開会の挨拶
 - ・司会より、林委員長に議事の進行を依頼し、以後の進行については委員長が行った。
 - ・委員長より、(評価の対象である)法人が本日の委員会に最後まで同席することについて、委員の了承を得た。

議事1 令和3年度の業務実績に関する評価について

<事務局説明>

資料1に基づき、令和3年度の業務実績に関する評価(案)について説明

(委員長)

本案についてのご意見をお願いしたい。

(委員)

D X教育研究センターについて、今後どのようなことを展開していくのか。

(法人)

現在は、100社程度いるアソシエイト会員へ向け、D Xや関連イベントの

定期的な案内をしたり、コワーキングスペースを活用して相談のあった企業の課題解決などに取り組んでいる。今後は、企業との共同研究へ発展させたり、さらに学生をそこに参加・体験してもらったり、ということを考えている。

(法人)

他にも、ポリゴンという学生団体を立ち上げ、DXに関連するデザイン思考も取り入れ課題解決を目指して活動しており、その取組みの一つとして、この構成員が、県との協働で、県庁のデジタル化の推進に取り組むといった活動もしている。

(委員)

前々回の委員会において、科研費が増となっているが、それを実行する教員へのケアはちゃんとできているかということをお聞きしたところ、サバティカル制度も含め適切に対応しているということが分かった。しかし評価結果には記載がないので、記載してはどうか。

(事務局)

大学とも相談し、そのようなことを盛り込めないか検討する。

(委員長)

他にはご意見はないか。

(委員)

特に異議はない。よくまとまっている。

(委員)

特に異議はない。

(委員)

新型コロナウイルス感染症の影響で修学が困難となった学生はいるか。

(法人)

新型コロナウイルス感染症の影響で修学が困難となった学生はいない。授業料や入学料の免除、各種奨学金など、支援体制も整っている。

(委員)

そのようなことも評価に記載してほしい。

(委員)

瀋陽化工大学とは、教育だけでなく研究について連携していないのか。

(委員長)

何か具体的な事例があれば記載することとしたい。

確認だが、今後の課題にある、看護系大学院と専攻科の状況について聞きたい。

(法人)

8月末には国から設置認可がある見込み。着実に準備を進めている。

(委員長)

大学院への進学は、内部生が中心なのか。外部からも入学があるのか。

(法人)

希望する内部生は皆進学できるようにと考えている。また、社会人からも一定数の入学者はいると思う。

(委員長)

了解した。他に意見はあるか。

ないようなので、それでは、令和3年度の評価については、今回意見の出

た項目について追加修正を加える形で進めたい。また今後の手続については、評価の基本方針にあるように法人に対し、意見の申立ての機会を与えることになっている。これらについては事務局と協議して、委員長である私に一任とさせていただきたい。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

それでは、本日の議事はこれで終了する。